



酒田市 / 山居倉庫

新緑の木洩れ日誘う 米蔵の小径

 庄内銀行

Cradle 5

「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

2022 May/June

令和4年5月1日発行(隔月寄致日発行)第12巻5号(通巻71号)

発行 / Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15 [株式会社 出羽庄内地域デザイン] 電話0236 (64) 0888  
制作 / Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3 [コア・コミュニケーションズ] 電話0234(41)0012

美しくつかしい、日本をのせて。

# Cradle

特集  
夏の鳥海、山歩き

庄内憧憬  
岸本誠司  
民俗学研究者

「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

5

2022 May/June  
TAKE FREE  
NO.71



農や漁にたずさわる人々にとっての鳥海山は、命や水を育む母なる山であり、祖霊が赴く信仰の山であった。

## 鳥海山

### 農と漁のまなざし

#### 岸本 誠司

山形と秋田の県境にそびえる鳥海山（2236m）は、約60万年のあいだ活動を続けている活火山だ。地元の人々は皆、自分が住む地域から望む鳥海山の姿がもつとも素晴らしいと自慢している。実際どこから望んでも素晴らしく、その理由は鳥海山が独立峰であることや、溶岩地形と崩壊地形が発達している大地の成り立ちにある。鳥海山には為政者、宗教者、農や漁にたずさわる庶民など、多くの人々のまなざしが向けられ重層的な文化が育まれてきた。とりわけ、山野河海さんやがかいを生活の舞台とする農や漁にたずさわる人々にとっての鳥海山は、命や水を育む母なる山であり、祖霊が赴く信仰の山であった。

鳥海山に向けられる農のまなざしのひとつに「雪形」がある。雪形とは、残雪と山肌がつくるさまざまな模様を何かの形に見立てて名づけたもので、鳥海山ではとりわけ「種まき爺さん」が有名である。現在は春の訪れを告げるサインとして庄内の人々に親しまれているが、本来は農

作業などの目安となる「自然暦」の造形である。例えば酒田市の農村部では、鳥海山の残雪が御神酒おみきすず瓶子の形になったら苗代の種おろしをするといひ、旧余目町ではその御神酒瓶子の首が切れないうちに田植えを終えると伝え、遊佐町吹浦では鳥海山の一合目あたりに「狸」と「蛙」の雪形が出たら種を蒔くといった自然暦が伝えられてきた。

鳥海山の火山活動のひとつの特徴として、噴出した火山灰の少なさが指摘されている。山の起伏が火山灰で埋まらなかったため山頂付近まで明瞭な溶岩地形が残った。こうした山の地形と多雪や強風などの気象条件とがあいまって、多くの雪渓や雪形が生まれている。

飛島には「日和見」という役職がある。かつては組ごとに適任者が選ばれ、時化しけの多い冬には早朝毎日のように日和見のどこの家を集まり、イカやホッケ漁の出漁の可否を判断した。日和見は鳥海山の雲のかかり方や風向き、気圧計の針の動きなど

を見て明日の天気を予測した。春の海藻類や秋のメバル漁など資源管理を伴う漁の口明けくちあけを決めるのも、日和見の大切な役割だった。

GPSが普及する以前、海上の位置を覚えておく方法に「山合わせ」があった。船から見える特徴ある地形や樹木などを目印として、海上の位置を記憶する漁民特有の民俗知である。山合わせには、飛島周辺の島や岩、樹木などが使われ、鳥海山や秋田方面の山や地形も重要な目印となった。「○○島と□□島のほそあきにて、にまきはなより△△島出して小さき松、前たかはねにあててうちなり」、これはある漁家の山合わせであるが、こうした情報が漁家ごとの知的財産として伝えられてきた。鳥海山に向けられた漁のまなざしは、風向きや時化を判断する観天望氣かんてんぼうきとなり、競争と協働の原理からなる漁民の暮らしや社会を支えるものであった。



飛島の4月、冬の刺し網漁ももう終わりで。漁の後はタラやカニなどが入った「なや汁」を皆で食べる。このときごちそうになった味が忘れられない。  
文・写真=岸本誠司

きしもと・せいじ／1971年生まれ、兵庫県出身。専門は環境民俗学。2005年より東北芸術工科大学専任講師。2015年より鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会主任研究員。現在、東北工業大学ライフデザイン学部教授、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会外部研究員、特定非営利活動法人パートナーシップオフィス理事。飛島の文化継承やまちづくり、海岸漂着物対策に関するNPO活動などにも取り組んでいる。共著に『1986 飛島の磯と海』など。



特集

# 夏の鳥海、山歩き

あの美しく気高い姿に近づきたいという憧れと「この山よい山」と鳥海音頭を口ずさめる親しみと。母のようで友のようで師でもあり、人々が心を寄せ信仰を集める鳥海山。今回は「ちょっとそこまで」会いに行く気持ちで、地元の“山屋”のエキスパートの皆さんからトレッキングコースを案内していただきました。今年の夏山で、皆さんと鳥海山で会えるのを楽しみにしています。

鳥海山段ボール模型制作＝保科恵一（鳥海山・飛鳥ジオパーク認定ガイド） ※段ボール模型の掲載にあたっては、国土地理院発行の1/25000地形図をもとに加工されたものを使用しました。

# 静寂なるブナ林の奥にひそむ、神秘の池へ

標高800mにある鶴間池までの道のりは、湯ノ台コースの登山口に向かう途中の荒木橋手前に車を止めて、片道約1時間。ブナの森に囲まれた絵画のような世界が広がっています。

「最短ルートは『のぞき』から勘助坂を行くコースです。ただ、途中がはしごのある急坂なので、慣れていない人は荒木橋からのコースがおすすめです。ブナ林を通って沢沿いを歩くので、映画『もののけ姫』に出てくるような幻想的な景色が楽しめます」。午前10時過ぎに出発して鶴間池でお昼を食べ、戻って午後2〜3時。鳥海やわたインタープリター協会の信夫効次さんは、鶴間池へのトレッキングは初心者にもピッタリと話します。「1年を通して一番気が良くて天気が安定する時期が、梅雨前の5月。さわやかで、ブナの新緑と青空と、残雪に冬芽の皮が落ちて、その景色見たさに行く方が多いですね」。のぞきの駐車場まで行

鳥海山の地すべりでできたという鶴間池は、モリアオガエルの繁殖地として山形県の天然記念物にも指定されている。写真は勘助坂下り口付近から見た5月下旬の鶴間池。(2018.5.20撮影)



**池沢**  
鶴間池の清流が流れる森の中の小川。ここが見えたら目的地はもうすぐ。(2018.9.23撮影)

ける鳥海高原ラインの開通は6月中旬以降。その前にブナの新緑の季節に鶴間池まで歩いてみたい方は、鳥海やわたインタープリター協会に問い合わせを。  
登山愛好者も写真家も魅せられる四季の鶴間池は、鳥海登山のはじめの一步に絶好の山歩きです。

ける鳥海高原ラインの開通は6月中旬以降。その前にブナの新緑の季節に鶴間池まで歩いてみたい方は、鳥海やわたインタープリター協会に問い合わせを。  
登山愛好者も写真家も魅せられる四季の鶴間池は、鳥海登山のはじめの一步に絶好の山歩きです。

鳥海やわたインタープリター協会  
問/090-2953-5022(事務局 佐々木)



**鶴間池小舎**  
池の南側にある鶴間池小舎。八幡山岳会が管理し、1階は誰でも利用できる。トイレはなし。



**鶴間池 池畔**  
残雪が輝く鳥海山を水面に映す鶴間池。どの季節も池は豊かな自然と静寂に包まれた異次元の美しさを見せてくれる。(2018.5.20撮影)



**鶴間池**  
新緑の時期と並んで人気なのが紅葉シーズン。鶴間池は冬でも氷結しないため、四季を通じて水鳥や小動物が集まる場所になっている。(2012.10.27撮影)

湯ノ台コース  
登山口へ



**マタフリ滝**  
鶴間池から遠くに見えるマタフリ滝。雪どけ水を集めた滝のため、夏から秋にかけては枯れてしまうこともある。



**勘助坂のはしご**  
勘助坂コースは駐車場からしばらく歩くとかなりの急坂になり、4カ所のはしごとロープを用いて上り下りする。



**鶴間池の案内人**

**信夫 効次さん**  
鳥海やわたインタープリター協会 会長



**荒木橋コースのブナ原生林**  
荒木橋からの道は、1カ所急なところがあるものの、ブナ林の中を歩く緩やかな下り道。ここのブナ林は信夫さん曰く「天下一品!」だとか。(2018.5.20撮影)

写真提供：鳥海やわたインタープリター協会



**鳥海ブルーライン**〈4月末開通〉

鳥海ブルーラインを通して標高1000mまで車で行くことができる。開通直後は登山道が雪で覆われているため山行は経験者向き。混雑期は大平口の駐車場は満車が続く。写真は昨年4月。



**高橋 務さん**  
 鳥海山岳会  
 NPO法人 遊佐鳥海観光協会  
 事務局長

**筈ヶ岳**

長坂道分岐から岩峰、三峰、二峰と花の道のような尾根道を歩く。筈ヶ岳には三角点が置かれ、その周囲にもお花畑が広がる。



**長坂道T字分岐**

河原宿から雪渓を越えたところにある分岐は、視界が開けた人気のスポット。お花畑に囲まれて、ベンチでひと休みできる。

鳥海山に開かれた四方の登山口の中でも鳥海修験、信仰の道として歴史薫る吹浦口。海から眺めれば眼前に山稜が迫り山を登れば眼下には海が広がる。単独峰の鳥海山を体感できる山行です。

5月連休のバックカントリースキーを1年で最も楽しみにしているという鳥海山岳会の高橋務さん。鳥海山には全国から春スキー愛好者が集結し、大変なにぎわいを見せます。

鳥海ブルーラインからの吹浦口コースは、初めての鳥海登山にも向くコースです。山開きの7月1日直後はまだ雪が多く、7月中旬からお盆頃がベストシーズン。「吹浦口から目指すなら御浜ですね。その道々は夏遅くまで雪が残るので、高山植物を長く楽しむことができます」。

吹浦口からは、やまがた百名山にも選ばれている西鳥海の「筈ヶ岳」も人気の目的地です。筈ヶ岳の尾根からは、天気の良いと庄内平野から日本海を見渡せます。「内陸や県外から来られた方は、山に登って海が見えるのですごく喜ばれますね」。

海抜ゼロメートルから一気に立ちあがる単独峰は、鳥海山の代名詞。また古来、大物忌神をまつる信仰の御山として、吹浦からの登山道には参拝道の名残が今も残っています。

特集

**夏の鳥海、山歩き**

写真提供：高橋 務



チョウカイフスマ



**扇子森～御田ヶ原**

登山道付近ではチョウカイフスマが見られるので、見逃しにご注意。風が当たる場所のため、乾燥に強い高山植物が分布している。

今年の営業は7月2日(土)から。



標高1,700m

**御浜小屋**

ぐるっとお花畑

**鳥海湖**

7周すると7時間30分くらい

地中の水がとけたり凍ったりをくり返してできる段々畑のような周氷河地形

いい眺め!

4つのピーク(頂、高いところ)を尾根歩き

雪が遅くまで残って、とけたところからさまざまな花が咲きます

雪渓

標高1,200mくらいから灌木(低木)地帯に。

50分ほど花の道が続く

10分ほど

40分ほど

1時間ほど

50分ほど

20台

100台

標高1,080m

鳥海山4合目



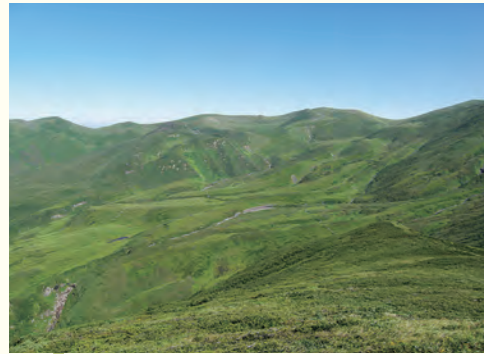
**鳥海湖と花の字雪渓**

御浜から一望できる鳥海湖は、噴火の跡の火口湖。扇子森と鍋森に囲まれた湖水は雪どけ水や雨水で、冬は雪に覆われ湖底まで凍結する。山肌を覆って花々が季節を追うようにして咲く、鳥海山の中でも特に大きなお花畑が広がる名所。



**御浜コース**

**山頂と海を眺める御浜へ花の道をゆく**



### 月山森から眺める 千畳ヶ原

千畳ヶ原は標高1400mの高地に広がる壮大な湿地帯。木道が整備された美しい場所だが、幸治郎沢という難所を越える必要がある。

せんじょうがはら  
千畳ヶ原

大きな岩の難所

幸治郎沢

沢になるから雨が降ったら絶対に行っちゃダメ!



標高1,640m

月山森

チングルマや  
イワイチョウのお花畑

40分ほど  
お花畑

月山森

月山森の山頂付近は低木のハイマツが主で、庄内平野が一望できる場所。春から夏までの高山植物を間近で観賞できる。

信夫さん  
おすすめ  
コース

八丁坂

ヨツバシオガマや  
ウラジロヨウラク

時期が早いと  
雪渓が残っているよ!



滝ノ小屋上の雪渓

新山(山頂)

ふしおがみだけ  
伏拝岳

あざみ坂

湯ノ台コース  
最大の難所  
行くなら覚悟と  
準備が必須!

小雪溪

心字雪



心字雪の大雪溪

河原宿の分岐点を右に行くと、大雪溪と小雪溪を経て新山(山頂)に向かうルートとなる。残雪の形が「心」に見えるため「心字雪」とも。



アオノツガザクラ

鳥海山では多種多様な高山植物が7月中旬から8月上旬にかけて次々とその可憐な姿を現すため、「花の山」とも呼ばれる。

河原宿

標高1,500m

お花畑

八丁坂

●白糸ノ滝

滝ノ小屋

30台

20台

登山口

標高1,200m

ここまでの開通は6月末



湯ノ台コース

標高1200mの登山口から山形県側では最短距離で山頂まで登れるコース。他のコースに比べやや勾配があるが、お花畑や雪渓、庄内平野と日本海の眺望など見所も多い。

滝ノ小屋と山頂

登山口から歩いて30分ほどにある滝ノ小屋。この先、八丁坂を越えると河原宿に到着し、伏拝岳に向かうルートと月山森に向かうルートの分岐点となる。



「鳥海山は夏でもかなり雪渓が残っていて、雪が消えたところから春の山野草が次々と出てくるので、夏に春と冬を体感できる山です」。鳥海やわたインタープリターの信夫 効次さんは、山形県側では新山山頂まで最短距離の湯ノ台コースに、その魅力が詰まっていると話します。

「最短距離とはいっても、頂上まで往復で10時間以上かかります。初めて鳥海山に登るのであれば、無理に山頂を目指さず、午前9時頃に駐車場をスタートして午後3時頃に戻るトレッキングコースがおすすめです」。

それが「月山森」を目指すコース。庄内平野を一望でき、途中の八丁坂や河原宿ではお花畑を堪能できます。そして月山森でお弁当開きをしたら、



八丁坂からの庄内平野

滝ノ小屋から河原宿までの八丁坂は、人気のお花畑コース。眺めもよく、天気の良い日は新潟県の粟島も見える。

湯ノ台コース(月山森・大雪溪)

# 花を愛で、雪渓で遊ぶ 天空トレッキング

高山植物が咲き誇り、雪渓が残る、標高1500mの天空の世界。  
湯ノ台コースには「花の山」とも呼ばれる鳥海山の魅力が凝縮しています。

河原宿に戻って山頂方面の大雪溪へ。チングルマなど雪解け後に咲く花々と出合えます。「おすすめは7月中旬から8月上旬です。『花の山』とも呼ばれる鳥海山の魅力をぜひ体験してください」。

特集

夏の鳥海、山歩き

# 鳳来山スノートレッキング

雪が多かった今年こそ冬山へ！と、

3月末にクレードルのスタッフで鳥海山に出かけました。登山道はまだ雪の下。数メートル積もった雪の上に行くトレッキングは空中散歩さながらです。今回は鳥海やわたインタープリター協会の皆さんと、鳥海山の一峰「鳳来山」を目指しました。



この日の装備は「かんじき」。こたくなく歩ける、昔の人たちの創意工夫に敬服。

かんじきとストックは鳥海山荘で借りられます



鳳来山までは手軽に冬山を体験できるコース。あの頂を目指します

ミズナラやヤマモミジなどさまざまな木の中を歩きます



9:00am



出発!



## カワゲラ

セッケイカワゲラ(雪虫)は羽がなく、雪の上が生活の場。自分が生まれた沢の上流へと移動し、水のきれいな溪流で産卵する。

## 根開け

春の季語でもある「根開け」は、木の根元の雪がとける現象で、早春のブナの森で見られる。木の温度や風雨などが原因との説。



## 熊の爪あと

木をひっかいたような熊の爪あと。上の枝が折れているのはブナの実を食べた痕跡。ここで信夫さんが取り出したのは熊の手のはく製!



ちなみにこちらは山うさぎの手のはく製

## 山うさぎの足跡

うさぎは最近あまり見られなくなったとか。うさぎはきつねの餌になるが、餌がなくなればきつねも絶滅してしまい、生態系のバランスが崩れてしまう。



うさぎのフン。子どもは親のフンを食べて、植物を分解する酵素を摂取するそう。

山うさぎの足跡を発見!

## 鳳来山

●鳥海高原 家族旅行村

●鳥海山荘

特集

夏の鳥海、山歩き

ナナカマドにヤドリギ。樹木の枝や幹に寄生して育つ。冬鳥のキレンジャクやヒレンジャクのフンによって媒介。こんなに近くで見られるのは珍しいそう。



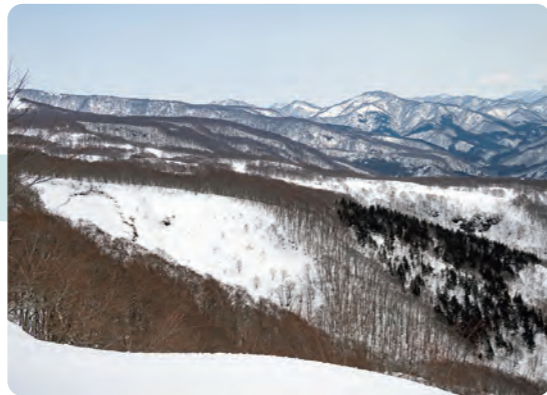
ハンノキの雄花



## 下山 11:40am

帰りは直登の尾根から。まさらな雪面を滑るようにして下りて30分ほどで下山。

庄内平野も遠くまで連なる山稜も冬の色合い。太陽は温かく、冷気は心地よく、夏山とは別の爽快感が。ここ鳳来山は鳥海山の火山活動の3つのステージのうち、ステージIの約60万~16万年前の溶岩などで形成された。

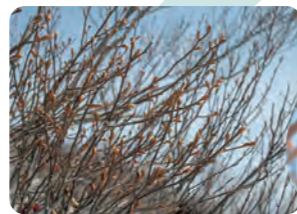


「鳳来桜」と呼ぶ人もいるヤマザクラ。花が咲く頃は雪がとけてしまうので花を見ることがない、冬に会いに来るサクラ。



日もさしてきて気持ちいいブナ林散歩

ブナの冬芽



## 冬芽

樹木の芽は冬の間は休眠中。こちらは春になると成長を始めるブナの冬芽。やがて芽鱗が雪の上に落ちて「雪紅葉」を見せる。

ここで積雪2mくらい



雪の下は藪で、夏山ではめったに歩かない場所。いつもは見上げる高い枝もこんなに近くに。

※:写真提供=鳥海やわたインタープリター協会

## 雪山の手引き

冬山は登山道が雪に覆われていて、新雪が降ればトレース(先行者の踏み跡)も消えるので道しるべがありません。普段は歩けない場所を歩ける楽しさはありませんが、雪の下には崖や沢もあって、沢を踏み抜くとかなり危険です。登山道を知っていても、冬山に慣れていない人はガイドを頼むのが安全です。その上で、どこを歩いてもいい自由な山歩きを楽しんでみてくださいね。



やってみて良かった雪上大の字



下山後の楽しみは鳥海山荘で。鳥海高原ヨーグルトと地元の麓井酒造の酒粕を使った鶏肉の味噌焼き定食を食べた後は、温泉に入っすっきりリフレッシュ。

## 鳳来山 山頂《標高約800m》到着!



鳳来山の山頂までは尾根歩き



## しな織創芸石田の しな織帽子

山を織り、山をまとう  
羽越しな布  
貴重な布をふんだんに  
使ったつば広帽子は  
持ち運びに便利な折りたたみ式

山里では、いつの頃からか山地に自生するシ  
ナノキの樹皮内部の鞣皮じんぴを取り出して繊維にし、  
縄や腰布、衣類などを作ってきた。江戸時代に  
綿の栽培が始まると木綿にとって代われ、シ  
ナノキを使う地域は次々となくなったが、山形  
県と新潟県の県境にある集落では今も昔と変わ  
らない製法で糸を作り、布を織っている。日本  
三大古代布の一つ、「羽越しな布」である。

鶴岡市大山の「しな織創芸石田」は、現代に  
残るこの奇跡の古代布を守るために、平成2年  
に故石田誠さんが創業したお店だ。以来全国各  
地の職人と現代的なデザインのしな布製品を開  
発し、世に送り出してきた。平成24年からは息  
子の航平さんが事業を継ぎ、関川（山形県）と  
山熊田（新潟県）から買い取ったしな布で、新  
たな世代の職人と新製品を開発し、全国の百貨  
店で展示販売している。すべては糸の作り手と  
産地、そしてしな布文化を次世代に残すためだ。

右の写真は「つばが広くて折りたためるもの  
がほしい」とのお客様からの声をもとに、昨年  
初夏に開発した帽子である。もともとシナの糸  
は頑丈で通気性と耐水性に優れるため帽子に適  
するが、今回は裁断の仕方やつなぎ方、つばの  
縁の処理など、至るところに帽子職人の知恵と  
技を効かせた。使うほどに頭の形にフィットし、  
風合いも増すというから、使い手の人生と共に  
成長する帽子なのだろう。毎年6月にシナノキ  
の樹皮をはぎ、糸にするまでに十数工程、完成  
するまでに10カ月かかるしな布には、山と人の  
壮大な営みと、古代からの時が息づいている。



「しな織創芸石田」のしな布製品の購入は下記の  
WEBサイトより。5月の展示販売会は、4/28～5/3  
さっぽろ東急百貨店、5/11～17大阪高島屋、  
5/12～22恵塾画廊（山形市）、5/18～24仙台三  
越、5/25～31松坂屋名古屋店で開催予定。

「しな織創芸石田」公式オンラインショップ  
<https://shinafu.com/collections>  
☎0235-33-2025 (10:00～18:00/水曜定休)  
クレードルショップ「iino」 ☎0800-800-0806  
<https://cradleshop-iino.com/>

(取材・文 長谷川結)







藤島川から月山を望む

# 春の水きらめく 羽黒町川代を歩く

一月遅れで庭のクロッカスが咲いた。  
雪解けの土の匂い、ようやく動き出した季節に  
小さな春を探しに出かけた。

季語  
春の水  
(はるのみず)  
春になると、雪解けの水や  
雨で、川や池などの水かさ  
が増す。水面は光り輝き、  
水音も高くなる。

いぬふぐり一花一花に深空あり

— 林翔

雪に惑わされたのは白鳥だけではな  
かった。この冬は、毎日雪かきに疲弊し、  
雪のない土地をうらやましいと思わずに  
はいられなかった。しかしあれほどあつ  
た雪も、春になれば跡形もなく消えてし  
まう。寒さの中でせつせと汗をかいたあ  
の苦労と苦悩は何だったのだろう。眼前  
の月山の残雪が青空にまぶしく、足元の



春光を浴びる犬ふぐり

開け」と青空が、見事な景色を披露する。

流れきて春の水鳴るひとところ

— 寺尾恒子

流れる川は少しずつ雪解け水を集め、  
まばゆいほどのきらめきを放っている。  
芽吹く前の木々が微かに、萌黄色になり  
ささやきあっている。冬から春へバトン  
が手渡され、木々の芽吹きは相談してい  
たかのように一斉に進む。里では、駆け  
足で花が咲き出す。毎年のことながら春  
を迎えるこの喜びは、雪国に暮らすもの  
にしかわからないものがある。



雪解け一番に顔を出すばんげ

平和とふ無限の願ひ鳥帰る

— あへ小萩

数羽の白鳥が飛び立ち、声をあげなが  
ら旋回し、青空に吸い込まれるように消  
えていった。いつもより遅くシベリアへ  
帰っていく白鳥に平和への思いを託した。  
夕方、春三日月が夜空に漕ぎ出す船のよ  
うに横たわっていた。



微かに色づく木々

鶴岡市羽黒町川代地区に流れる藤島川  
沿いに県道346号を歩くと、雪がまだ  
残る田んぼの泥の中で、白鳥たちが落穂  
を拾っていた。4月に入っても白鳥がい  
ることに驚く。今年の冬は例年より積雪  
が多く、餌を食べられない白鳥がさらに  
南下したとも聞いたが、北帰行の途中に  
立ち寄ったのか、まだ帰れずにいたのか。  
一生懸命餌をついばむ白鳥たちは、心な  
しかほっそりとした体軀をしていた。

田んぼの畔に犬ふぐりが気持ち良さそう  
に空を仰いでいる。ばんげ(ふきのとう)  
が重い雪にじっと耐え抜いてきたのだぞ、  
といったふうな姿を見せる。

山裾は山につながり木の根開く

— 岩淵喜代子

寒さ厳しい白一色の季節が長く続いた  
後、日差しは日に日に太くなる。立木の  
根元の雪がまわりの雪に先立つように解  
けて、「根開け」が白い山肌に斑模様を  
作っていた。「根開け」は、木が吸い上げ  
る地下水が外気より温かいため、これを  
吸い上げる幹の回りの温度もほんの少し  
高くなることで他より早く解けるとか。  
まもなく月山麓では、ブナの新緑と「根



田んぼで落穂拾いをする白鳥